



# このころのうえんを世話する 心の農園を世話する

あたたかいはひのあさえんげいが  
暖かい晴れの日の朝です。園芸家の  
フレッドさんは、自分の農園に出かけて  
行きました。農園は、きれいに並んだ  
にんじんや、トマトや果物の木、それに  
色とりどりの花でいっぱいです。

やさしくさはなげんき  
「野菜や草花が元気で、いつも  
生き生きした農園にするには、  
やる事がたくさんあるぞ。  
さて、どこから始めようかな。」と、  
フレッドさんが言いました。

えんげいが  
「ほく、園芸家の  
フレッドさんを手伝うのが  
大好きなんだ。健康な  
土づくりは、ほくの  
役目だからね。」と、  
ミミス君が言いました。



のうえん せ わ おお しごと えんげい か  
農園を世話するには多くの仕事がありますが、園芸家の  
フレッドさんは、じょうず しごと たね  
上手に仕事をこなしていきます。種まきの  
あと せいちよう  
後には、やる事がたくさんあります。種の成長には、  
てきど りよう にっこう みず ひつよう ひりよう ひつよう つち  
適度な量の日光と水が必要です。肥料も必要だし、土から  
えいようぶん す と ざっそう まも  
栄養分を吸い取ってしまう雑草からも守らなければなりません。  
とり むし やさい くさばな た  
鳥や虫やナメクジが野菜や草花を食べてしまわないように  
き つ  
気を付けなければなりません。フレッドさんは、まいにち のうえん  
毎日農園で  
はたら やさい くさばな せ わ  
せっせと働いて、野菜や草花をよく世話しました。彼は、  
せいちよう み だいす  
それらが成長していくのを見るのが大好きです。

「くん こころ のうえん  
「ミミズ君。ほくたちの心も農園みたいなものだって、  
し  
知っていたかい？ ほくたちが読むものや、見るもの、  
おこな たね じぶん おこな ことば  
する行いは、種のようなものなんだ。自分の行いや言葉に  
あい しんせつ こころ なか よ  
愛がこもっていて、親切になれるように、心の中には良い  
たね う  
種を植えたいものだね。」と、フレッドさんが言いました。



---

「あっ、大変だ！」 思わずフレッドさんがさげびました。  
「カラスだ！ 植えたばかりのカブが食べられないように  
しないと。シッ、シッ！」

「かがしが 必要ですね。最高の かがし計画を 作りましたよ！」  
と、ミミス君が 言いました。

「それはいいね。最後に作ったのは、もう古くて  
ボロボロだから。ちょうど新しいのが 必要だったよ。  
だけど、まずは、ほくのかわいい花たちに、水をやらないと。  
きっと、のどがかわいているにちがいない。」

---



---

くさばな せいちょう みず ひつよう  
「草花は、成長するのに水が必要なんだ。ちょうど、  
かみさま こ しんこう やしな ことば みず ひつよう  
神様の子たちが信仰を養うのにみ言葉の水を必要と  
しているようにね。かみさま ことば  
神様のみ言葉がないと、ほくたちの  
こころ  
心はかわいてしまうんだ。」

くん きも たの  
ミミズ君は気持ちのいいシャワーを楽しんでいましたが、  
か いへん お き  
ふと、花だんに異変が起きているのに気が付きました。

たいへん さっそく おお  
「大変です、フレッドさん！ 雑草です！ 大きくて  
いやな雑草です！ どうしましょう？」

---



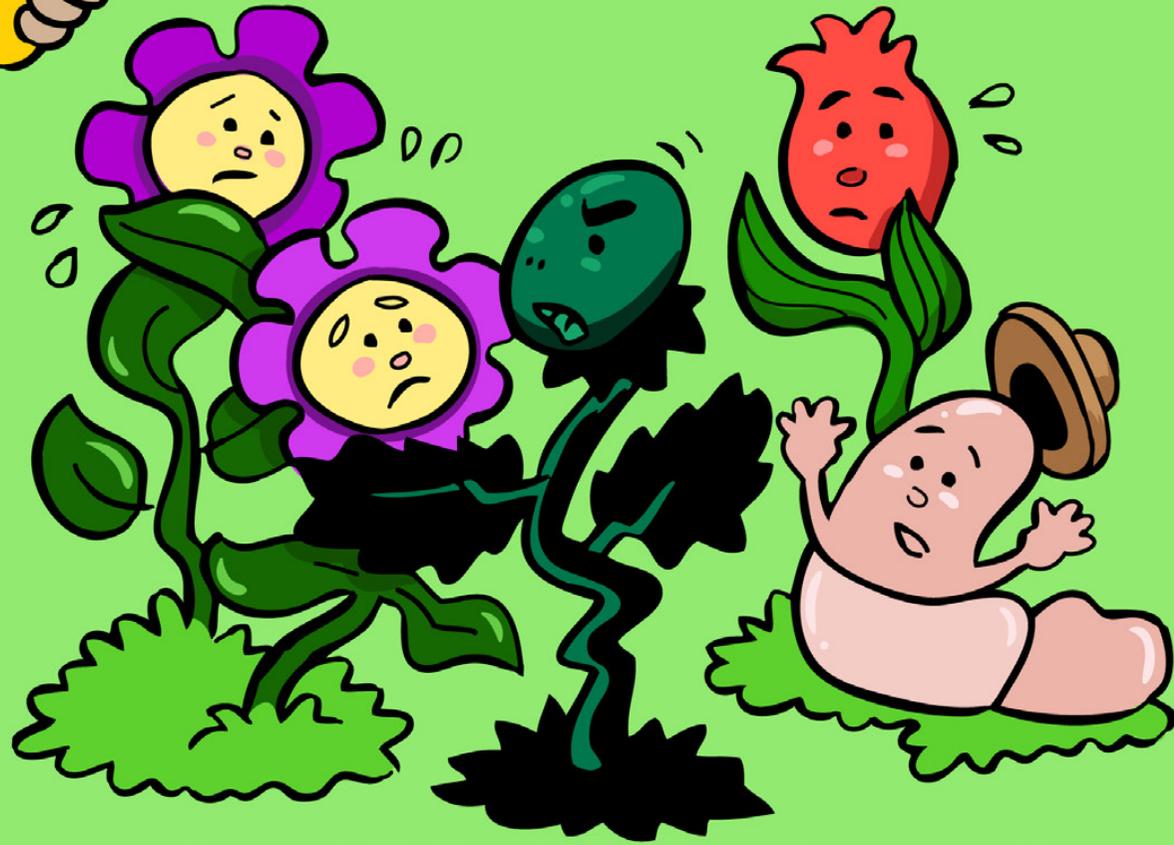


「<sup>ざっぞう</sup>雑草だって?」

「はい、ここです!」

「みにくくて、いやな<sup>ざっぞう</sup>雑草だ。  
ほくの<sup>くさはな</sup>草花を<sup>くる</sup>苦しめるんだ。」と、フレッドさん。

フレッドさんは<sup>いしょく</sup>移植ごてをつかむと、  
<sup>ざっぞう</sup>雑草の<sup>は</sup>生えた<sup>か</sup>花だんに<sup>ちよつごう</sup>直行しました。



「<sup>ざっぞう</sup>雑草は、<sup>のうえん</sup>農園を <sup>だいなし</sup>だいなしにしてしまう!

ぬかなくちゃいけないんだ!」と、フレッドさんは  
<sup>おおこえ</sup>大声で <sup>い</sup>言いました。

「ぬける、<sup>わる</sup>悪い <sup>ざっぞう</sup>雑草め!」そう <sup>い</sup>言って、  
ミミス君は <sup>くん</sup>雑草の <sup>ね</sup>根を <sup>ぬく</sup>ぬくの  
<sup>てつぱ</sup>手伝いました。



<sup>ざっぞう</sup>雑草を <sup>ぬく</sup>ぬく <sup>とき</sup>時には、<sup>ね</sup>根も  
いっしょに <sup>ぬく</sup>ぬく <sup>こと</sup>ことが  
<sup>だいじ</sup>大事です。くきを <sup>お</sup>折る <sup>だけ</sup>だけで  
<sup>ね</sup>根が <sup>じめん</sup>地面に <sup>のこ</sup>残っていると、  
また <sup>すぐ</sup>すぐに <sup>のび</sup>のびてきて  
しまうからです。でも、  
<sup>ね</sup>根を <sup>ぬいて</sup>ぬいてしまえば、  
<sup>ざっぞう</sup>雑草は <sup>もう</sup>もう <sup>で</sup>出てきません。

---

「この雑草は、根がぬけたからよかったよ。だけど、ぬこうとした時に折れてしまったやつもあるから、今度はその根を掘り出さない。」

「ホントだ、地面の中には、雑草の大きな根っこが残っています。掘り出さないといけませんね。」と、ミミズ君も言いました。

雑草を全部ぬいてしまうのには、しばらくの時間がかかり、骨も折れましたが、まもなくすると、花だんの雑草は全部なくなりました。

---



「やったあ！ ついに、<sup>ざっそう ぜんぶ</sup>雑草が全部なくなっただぞ！  
<sup>か</sup>花だんもきれいに<sup>はな</sup>なったし。これで花たちは、<sup>ざっそう</sup>雑草に  
<sup>つち みず にっごう ひつよう えいようぶん</sup>じゃまされずに、土や水や日光から必要な栄養分や  
<sup>すいぶん ひかり と い</sup>水分や光を取り入れることができるぞ。

ほくたちの<sup>こころ おな</sup>心も、同じだよ。腹立たしい<sup>はらだ</sup>気持ちや  
<sup>ひていてき おも おこな あら なが</sup>否定的な思いや行いを洗い流して、きれいにして  
おがなくちゃいけないんだ。そういった<sup>つみ ざっそう</sup>罪や雑草を  
<sup>こころ と</sup>心から取りのぞけば、ほくたちはもつと<sup>しあわ</sup>幸せになり、  
<sup>み た きも かみさま</sup>満ち足りた気持ちになれる。そして、神様の  
<sup>ことば</sup>み言葉からも、もつと<sup>えいようぶん きゅうしゅう</sup>栄養分を吸収することができ、  
<sup>しんごう つよ</sup>信仰も強められるんだ。

<sup>きょう</sup>今日は、いい<sup>しごと</sup>仕事ができただよ、<sup>くん</sup>ミミス君！  
<sup>てつだ</sup>手伝ってくれて、ありがとう！ さとと、<sup>いま</sup>今から  
<sup>あたら たね</sup>新しい種をまくよ。」と、フレッドさん。

<sup>あたら たね</sup>「新しい種ですか！ イチゴはどうでしょう？  
ほく、イチゴが<sup>だいす</sup>大好きなんです！」



---

「それはいいね。あ、<sup>み</sup>見てごらんよ、<sup>くん</sup>ミミズ君！  
ちょうどここに、イチゴの<sup>たね</sup>種が<sup>ひくろ</sup>1袋あるよ。まくのに  
いい<sup>ばしょ</sup>場所があるぞ。暑くなる<sup>あつ</sup>前に<sup>まえ</sup>始めよう。」

あなたは、自分の<sup>じぶん</sup>心の<sup>こころ</sup>農園を<sup>のうえん</sup>よく<sup>せわ</sup>世話していますか？  
<sup>まいにち</sup>毎日<sup>さま</sup>イエス様との<sup>じかん</sup>時間を<sup>と</sup>取って、<sup>こころ</sup>心に<sup>ひつよう</sup>必要なものを  
<sup>あた</sup>与えましょう。み<sup>ことば</sup>言葉を<sup>よ</sup>読めば、<sup>しんこう</sup>信仰が<sup>つよ</sup>強められ、  
<sup>けんき</sup>元気になります。神様の<sup>かみさま</sup>み言葉が、<sup>ことば</sup>あなたを<sup>つよ</sup>強くして  
くれるのです！

